

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
なかま編集係

〒285-0025
佐倉市錦木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	命名の不思議	松山洋子	冬の夜空	清澤瞳子
3 ページ	北京の空の下で	許 昭美	心豊かな日々	中邨淑子

遂に出た新記録！佐倉市民ハイキング

石崎 幸助

去る二月八日（日）恒例の佐倉市民ハイキングが寒風吹きすさぶ中行われた。平成五年四月から、毎月行われている伝統あるハイキング、参加者は年々増えて、最近は一五〇名前後であるが、二〇六回目にこの例会は二二六名、遂に新記録が出た。担当班のご苦労に敬意を表したい。

また今回は、若いご夫婦が二人の幼児を連れて参加され、最後まで歩き通された。特に幼稚園の年中さんがお父様に抱っこされることもなく、殆ど一人で完歩されたことは驚きだった。このことは同ハイキングがまさに年代を超えた老若男女の楽しいイベントになりつつあると考えたい。

佐倉市民ハイキングは佐倉市民憲章推進協議会のご協力の基、市民カレッジ生と卒業生が毎月交代で担当になり、コース選定、下見、ポスター

作り、配布用説明資料の印刷、『なかま』の折込みなどを行っている。特にコース選定、下見には力を入れ、トイレ休憩は何処で、雨が降った時の昼食の場所とはか、道路を安全に横断するには此処で良いかなどなど、縁の下であれこれ相当苦労を重ねている。

同ハイキングは基本的には朝京成の駅に集合、各人による参加登録の後、コース説明、軽い準備体操をし、会旗を先頭に肅々と出発、各所を見物、トイレ休憩を経て、昼食場所へ。午後の出発前、恒例の合唱、初めて参加した頃は若干気恥ずかしかったが、今では下手ながら楽しくなった。午前、午後とも特徴ある旧跡などにて説明があり、午後三時頃解散場所へ。毎回の行程はほぼ十三キロから十五キロ。丁度良い距離ではないだろうか。昨年の八月には二〇〇回の

節目を迎え、藤佐倉市長、協議会の代表者等をお迎えし出発式を挙行、当日の参加者には記念のバッチも配られた。

また二〇〇回記念特別企画「奥日光を歩く」が十月に実施され大好評であった。

コースは佐倉市内が中心だが、成田、八千代など周辺地域に足を踏み入れることもある。今回も八千代方面に足を伸ばしており、それも参加者が多かった一因かも知れない。いずれにしても参加してみると、ここにこんな彫刻が、ここにこんな大木がなど意外と知らないことが多く参加の都度新しい発見がある。

最後に、同ハイキングの案内は主要駅、公民館などに貼りだされているポスターにより知ることが多いが、インターネットで「佐倉市民ハイキング」で検索すると素晴らしいホームページが見られ、それでいろいろと詳しい内容を知ることが出来る。

（編集委員）

命名の不思議

山野草が好きな私はよく観察会に出かける。その時出会った植物名が手許のノートに残る。しかし、それを記憶に留めるのは至難の業。とはいえ、もちろん例外もある。一度聞いたら忘れられない興味深いものを紹介しよう。

例えばヘクソカズラ。何とも気の毒な名である。この植物、確かに独特の臭気がある。しかし、中心部を紅紫色に染めて咲くラツパ形の小花は、気品があつて美しい。熟した黄褐色の丸い実も、その中の種さえもかわいいのに。

気の毒といえはボタンというのものもある。タンポポそっくりの花を長い花茎の天辺に付ける。群生すると辺り一面金色に輝く。フランス語の俗名からとつた名というが、ボタン（豚菜）はないだろう。

気の毒ついでにもう一つ。ヤブジラミ。細かく裂けた葉

も、白くて小さな花もセリに似ている。秋にはびっしりと実を付けるが、その実には曲がつた剛毛があり衣服に取り付く。やぶに生え、いつの間にか付く実をシラミに例えたものらしい。

ママコノシリヌグイという何とも恐ろしい名を持つ植物がある。花は同じタデ科のミゾソバに似るピンクの小花。コンペイ糖のようで愛らしい。思わず手を伸ばそうものなら大変なこと。鋭いとげにチクリとやられる。これで尻をぬぐうなど想像するだけでも身の毛がよだつ。そんな継子いじめがあつたのだろうか。

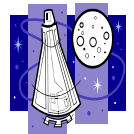
命名ひとつをとってみても、先人たちの鋭い感性や豊かな知恵をうかがい知ることができる。これが実におもしろい。

自然の中にあるがままの野草たちとの出会いを求め、私はまた山野に出かける。

（大蛇町 松山 洋子）



冬の夜空



空気は冷たいが、夜空の星たちは、どの季節よりも輝きを増す。オリオン、カシオペア等のなじみの星座が、冴え渡る冬空を飾る。

昨年十二月一日の夕方、西の空に一際、強い光の星二つを発見。上に、下に、更にその下に細い月。幻想的だ。

思わず通行く人に、ご近所の方にと声をかけ眺め続ける。暖冬なので、コート無しで。この宇宙ショーのことを知人に伝えると、早速インターネットで検索、結果が届く。

「西の空で、月齢四の細い月と宵の明星（金星）、更に木星が接近し、双眼鏡で同一視野に見え、太陽をのぞけば全天で、もつとも明るく輝く三人体が接近していることなる。この美しい眺めは、一足早いクリスマスプレゼント」と。この日は私の誕生日でもあった。

今年、ガリレオ・ガリレイが、望遠鏡で、宇宙観測を始めて四百年。

これを記念して「世界天文年二〇〇九」とされている。

四百年後の今、ハワイ島に設置の国立天文台の望遠鏡は東京から富士山頂のポールを見分けられる精度と言う。

また、一九六九年七月二十一日に、はじめて人類が月に降りた。それから四十年。

アポロ計画に携わった飛行士の総数三十一名。月面着陸六回のうち、月面に降り立つたのは十二名。アポロ一号の事故では、宇宙飛行士三名の尊い命が失われている。

人間にとつての小さな一歩。人類にとつての大きな一歩。世界中の人々をテレビにくぎづけにしたあの日の感動が甦る。

今朝のテレビに、爆発した際の脱出訓練をする笑顔の若田さんの姿があった。

（井野 清澤 瞳子）

北京の空の下で

北京オリンピックが終わった秋に当地を訪れました。立派になった国際空港の広さ、空港から市内への直通電車、高層ビルの群れ、そして街の整備は今なお続いていて変化し続けている様子に驚きました。オリンピック効果は空にも表れていました。一九八〇年代に来た時、空はとても青くてきれいでした。その青さが戻ってきていました。今回は観光ではなく、そこで暮らしているように街を歩き回りたいと思っていました。これまでの移動手段は殆どがタクシーでした。横目でバスを見ていても、決して乗ってみたいとは思わなかったけれど、バスは新しい車両が増えてきれいになっているし、町の中を走っているバスの多さに乗ってみたいと思うようになりました。コンピュータの陰でバス路線を簡単に検索で

きたことも、初めてバスに乗ることを可能にしてくれました。北京南駅に出かけるバスに乗った時のこと、車掌が乗客に「後ろのほうに進んでください、若い人は老人や困っている人に席を譲りましょう」と呼びかけています。このことは日本でも同様のことを電車の中などでアナウンスしていることがあるが、実際には若い人が席を譲ることは稀です。しかし中国は違っていました。若い人はすぐに席を譲ることに何の躊躇もなく立ち上がっていました。ご協力ありがとうございます」という車掌の声に思わず私の頬は緩んでいました。助けを必要としている人に温かい手が差し伸べられる様子に、観光バスやタクシーを利用しては知ることのない普段の生活に触れることができた今回の旅は、私の心のなかに温かい風を吹き込んでくれました。

(白銀 許 昭美)

心豊かな日々

私の生まれ育ったところは長野県の真ん中。松本市から中央アルプスに向かって走る上高地線の終点駅がある。家の後ろは山、前は岐阜県高山市に抜ける国道一五八号線と梓川が平行し、川向うはまた山。道路に沿って家々が並んでいて、ほとんどが同じ名字だから学校では皆が名前呼び合うのが当たり前。町なかの高校に行つて初めて名字で呼ばれ自分の名字を自覚した次第。そんな土地柄で子どもの数も少なく一年生から六年生まで男の子も女の子も一緒に集団でよく遊んだ。

夏はもっぱら川遊びに興じた。まだダムがなく大雨の度に河原の中の流れが変わる。泳ぎに適した流れの場所取りで時に川向うの子どもたちと喧嘩もした。河原には石がごろごろしているからお互いに石を投げあった。皆怪我をした痛さを経験しているから、互いに怪我人はださなかった。喧嘩といえば私たちの集落は東に山を背負っているの、川向うの山のほうが日当たりがよく初夏など木イチゴが早く食べられるので、こちらから出張していつては鉢合わせすると喧嘩になった。喧嘩も遊びのうちだった気がする。冬は裏山でそり遊び。山の中腹を用水路が流れ冬場は水が少なく凍るので竹ぼうきで滑る分だけ雪を掃いてスケートもした。

遊びにも喧嘩にも暗黙のルールがあつて年長者から教わつた。年長者は尊敬されていた。学校以外での遊びが多かつたと思う。今の子どもたちの方が遊びのメニューは圧倒的に多様だけれど、物がないかつたこそその豊かさがある頃には確かにあつた」と懐かしく思う今日この頃です。

(大蛇町 中邨 淑子)

4月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

わくろ道

今年の冬も池の水が凍らなかった。考えてみれば、ここ何年か凍った事がない様に思う。三十年前、佐倉へ引越してすぐに造ったひと坪ほどの手づくりの池。ハンディポンプ一台で、年中循環濾過しているの水はいつもきれいだ。が、当時、冬の間必ず表面が凍って、その下にじつと冬眠している錦鯉の姿を見たもの

だった。

今年は寒の内でも悠然と泳いでいて、暖かい日など餌を撒いてやると、すぐには食べにこないが、夕方頃には殆んど食べ尽していて、やはり温暖化のせいかと一人合点。
一匹五百円で買求めた当歳魚が、もう五、六年にもなるうか、今は四十センチほどになつて、これからが錦鯉本来の美しさを見せてくれる一番楽しい時期。今年の夏、猛暑のない事を祈る。

（岩淵 幸雄）

あがとき

花の便りがあちこちで聞かれる季節となりました。松山様が書かれたヤブジラミが散歩の途中で可憐な白い小さな花を咲かせているのを見つけ方も居られると思います。いかに雑草とはいえ、とんだ名前が付けられたものです。清澤様、美しい夜空への想いは、まさに「世界天文年二〇〇九」で数々のイベントが

開催される中での話題にふさわしく、皆様も夏の夜明けに肉眼でオリオン座を観察してはいかがでしょう。

許様、ご自身が願った旅ができ、その上心温まる体験も得たことに感銘いたします。
中邨様の「心豊かな日々」は、団塊の世代までの方で同じような体験をされた方をタイムスリップさせた記事でした。是非皆様もお孫さんのご自身の体験を伝えて頂ければと願います。

（六角 学）